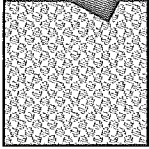


関西いのちの電話



ふれあうところ…06-6309-1121

2005.11
Vol.125



「風」 ……………P2

「相談員ノート」 ……P2

「第9回 全国研修担当者
セミナー」 ……………P3

「チャリティコンサート」
……………P4

「国見峠だより」 ……P5

「私の本棚」 ……………P6

洛東九番 萩乃霊場 迎称寺（京都市）

K風A

「団塊世代は、今…」

関西いのちの電話 事務局長 八尾 和彦

ベビーブーム、受験戦争、大学紛争、企業戦士、リストラ、年金 65 歳…これは、言うまでもなく団塊世代の代名詞である。団塊世代は、戦後のベビーブームに始まり、人生の節々において、津波のごとく巨大なウェーブとなって大海原をひた走りに走ってきた。田舎の学校に育ったわたしは、小中学生の頃、他の学年よりも生徒人数が多くて、そのことが時には誇らしげに思え、なんとなく嬉しくなることさえあった。この頃は本当に無邪気そのものであった。ところが、高校受験を目の当たりにした時、状況は一変した。いくら、このような田舎育ちと言えども、その現実の厳しさを知らされ、大学受験に至っては、その厳しさは高校受験の比ではなかった。その後まもなく、よく流行った歌、「昭和ブルース」の「生まれた時が悪いのか、それとも…」が、なぜか心地よく聞えてきた。やっとの思いで大学に入ったかと思えば大学紛争。そして、高度経済成長の波に乗り、

“企業戦士”として、わき目もふらず働き続けてきたその先は、バブル崩壊と容赦ないリストラ。おまけに年金は 65 歳までお預けとなる。

それにしても、団塊世代がいるところでは、必ず何かが起こる。世の中は騒がしくなる。団塊の世代、それは、平穩無事で落ち着くことを知らない世代だと言える。

今、その津波が上陸寸前の時に入っている。このあと、陸上のあらゆるものをなぎ倒し、巨大なエネルギーはついに失われ、ただ果てていくのであろうか。

関西いのちの電話広報誌の「国見峠だより」の執筆者・檀清々氏はエッセイを「国見峠だより 市民型シヤッフル人生のすすめ」という一冊の本にまとめ、出版された。すでに定年後 5 年を迎えられた氏は、その後の生き方を模索し、自らの体験をもとにこの書を書きあげられた。団塊世代の心をどこまでとらえることができるか、楽しみである。



— もったいない —

30 期 S. S

“お母さん、この頃のちの電話のブースに入ってるう？” 勤めから帰り、夕食のお皿を並べながら突然娘が聞いてきた。“ここんとこちよっと行けてないかなー”と私。“ああもったいない！私には、してみたいと思っても入れへんねんね”この何気ない会話に少なからず動揺した自分があつた。

関わるようになって 10 年、親の介護、家族に起こる様々な事、加えて自分の身体に起こる数々の故障などでブースの予約をやむなく取り消すことが増えている。

たしか研修講座で、ボランティアを定義して、自分の大切な時間と身体とお金を使ってする尊い行いである、と。

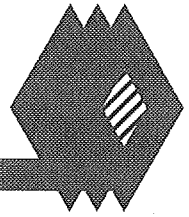
相談員 ノート

習ったはずだったなあ。決して余裕のある時間に余ったお金を使ってするものではないことを…。

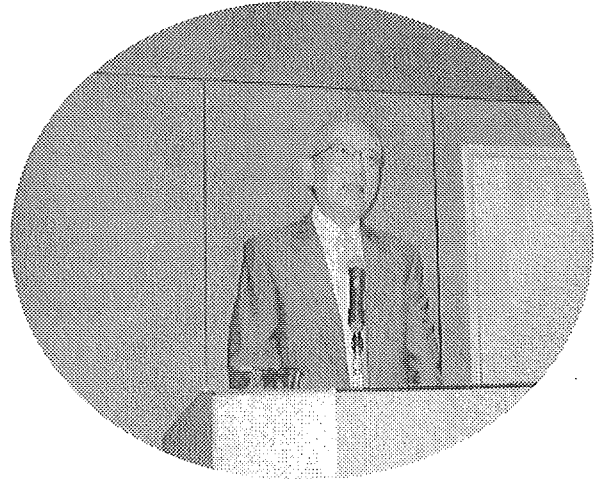
菅田先生の著書にもあつたように、ボランティア相談員は「特別な人」なのだ。「特別な人びと」である所以は、温かい配慮(ケア)と共感に富んだ人々であり、傾聴の技術において特別の訓練を受け、電話をかけてくる他者の悩みに耳を傾ける約束でその奉仕活動に参加したのである、と。

娘の言った“もったいない？”の言葉が頭の中をズキンズキンと駆け巡り、なんだか胸が熱くなつてきた。身近に持ち上がるいろんな事は確かに一つ一つ乗り越えていかねばならない大変な事ばかりだけれど、このボランティアをしたいと願って、勤め帰り、夕暮れの中を必死で駅から歩いたあの頃の気持ちをゆっくりかみしめてみなければと思った。

第9回全国研修担当者セミナー — 今、「いのちの電話」を考える —



第9回全国研修担当者セミナーは7月29・30の両日、ホテル阪急エキスポパークで開かれた。主管の関西いのちの電話以外からは46センター90名が参加した。新潟いのちの電話理事長真壁伍郎、心理療法カウンセラー下園壮太両氏の講演があり、全体会と5つの分科会をそれぞれ2回行い論議を深めた。ここでは真壁氏（写真）の「自殺予防いのちの電話 - 信頼される電話相談を目指して -」と題する基調講演の要旨を紹介する。



電話相談は、つながって良かったと本当に思う人の存在から始まります。一本一本の電話は、全て、はやる心にある人からの緊急電話です。この電話相談の活動に、偽善という批判があるかもしれません。それを承知する事は必要ですが、私たちは余りに早く評価を求める事はないと思います。ボランティアには、各人の才という天分と、たゆまぬ訓練が求められているものです。しかし先ず素人が相談を受ける意味、その積極的意味をこそ問題に据えようではありませんか。私たちは、相談者が語る内容に、自分の過去の思い出や周囲の姿を重ね合わせて、そこに心を向けているのではないのでしょうか。しかしそれは、相談員の意気込みはともかく、本当に信頼されるにたるレベル（＝質）にあるのか、私たち各人が帰着し且つ豊富化する原点が問われていることでもあります。医療の現場では spirit・science・skill 或いは heart・head・hand の三つが相伴って深められなければならないとされていますが、就中 spirit, heart に重きをおいています。

こうした個人の研修は、共にいる或いは共に生きる中へ身をおく→必要な事を感じとる→必要な技能を養うという拡がりの中で円環として働いて十全なものになります。学び続けること、経験を積み重ねること。

経験が多ければ学ぶことはより多くなります。「死んでもいい、クズみたいな人生」とは或る大学生の言葉です。私たちはこれにどう向き合えるのか。WHOは自殺防止の為の指針の中で全ての人の課題として3つ挙げています。①事実を正しく知ること ②自殺について先入観や偏見をとりさること ③自殺防止には広い範囲の働きかけが必要なことです。いいネットワークの中で活動出来ているかといえば日本はまだまだだと思いません。相談を自分たちの手柄にしています。「益を与えよ、さもなくば無害であれ」とはヒポクラテスの言葉です。またシュバイツァーら先人の言葉に自己と他人の隔絶、その中での交わりを学ぶべきでしょう。私たちは良いことをしていると錯覚している。他人を分析している。話は弾み、お喋りは尽きない。そこには「畏れるものなしの感覚」が生まれます。

研修は相談員の人間性を高めるものでありたいものです。匿名性が真に確立していれば知人でも電話してきます。何が出来るかではなく、地域に向け「共に生きる」姿勢を発信してゆくことが本来の姿ではないでしょうか。辞めてゆく人も同じネットワーク構成員であり良き協力者です。

（文責：広報・編集グループ）

「チャリティコンサート」 開催される



7月30日にいずみホールで開催されましたチャリティコンサートは、多数の参加者（410名）のご協力を得て無事に終了することができました。今年のチャリティコンサートは、サブタイトル「子守歌はだれのもの？」と題し、日下部吉彦さんの解説を交えながら、日本と西洋の子守歌をソプラノ歌手の篠原美幸さんの美しい歌声と今岡淑子さんの確かなピアノにのせて聞く「レクチャーコンサート」の形式で行われました。

毎年、日下部吉彦さんが「関西いのちの電話」のメッセージ性を込めてプロデュースして下さっていますが、今年の「レクチャーコンサート」は今までとは

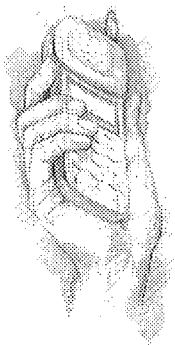
少し趣向が異なり、例年にも増して感動的なコンサートになりました。終盤に歌われた「さとうきび畑」では感極まって出演者も参加者も涙々…。「子守歌の原点を知ることができました」「歌詞の背景を知ることによって歌をさらに深く聞けました」「心地良く癒されました」と参加者の評価も高く、チーム一同安心しました。

近年、私たち素人がプロデュースするには出演者の人材確保が困難な事もあり、日下部さんにプロデュースを依頼していただいています。今後とも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

（文責：広報・企画チーム）

電話して

よかったと思う日がきつとくる。
あなたの心の苦しさを
お話ください。



◆ 自殺予防いのちの電話 ◆

12月1日（木）0:00～7日（水）24:00

0120-738-556
<24時間無料です。>



三浦綾子文学散歩

茨木市生涯学習センターで受講中の講座「三浦綾子への旅」の有志12名が、講師 榊井寿郎氏の企画で、三浦綾子の生きた北海道・旭川を2泊3日で訪ねることになった。今回、三浦文学 — 愛の、原罪の、庶民の文学 — その数々の作品を産み出した旭川の町を、駆け足ではあるが見聞できたことは、私にとって大いなる収穫であった。旅の詳細は身体に覚えさせるとして、粗方の足跡をここに記し、三浦綾子文学散歩の感激を思い起こす一助としたい。

1日目(9月12日)

旭川空港—就実の丘—大雪山・旭岳(姿見の池)—天人峡(羽衣の滝)—旭川(大船)

旭岳 その雄姿を仰ぎながら約1時間のコースを巡る花はミヤマリンドウ、オヤマノリンドウ、チングルマ、アキノキリンソウなど。

風ぎてなほ風の面影ちんぐるま

大船 綾子が最良にした三六街の居酒屋。

2日目(9月13日)

常盤公園散歩—旭山動物園—旭川リハビリテーション病院—観音霊園—三浦綾子の墓—嵐山展望台—井上靖記念館—塩狩峠—旭川泊

旭川リハビリテーション病院 綾子が亡くなった病院
三浦綾子の墓 墓に刻み込まれた言葉「神は愛なり(聖書)」、「着ぶくれて吾が前を行く姿だにしみじみ愛し吾が妻なれば 光世」「病む吾の手を握りつゝねむる夫眠れる顔を優しと想ふ 綾子」「墓誌 三浦綾子 1999. 10. 12 77才」。

緘黙の綾子の墓に詣でけり

塩狩峠記念館 三浦綾子旧宅を復元した部分(雑貨店、「氷点」執筆の部屋など) その外に広がる歌碑の森(綾子・光世氏の短歌の碑群)。

長野政雄の碑 「塩狩峠」の主人公。

身に入むや塩狩峠殉職碑

3日目(9月14日)

常盤公園・石狩川畔散歩—日本キリスト教団旭川六条教会—三浦綾子宅—三浦綾子記念文学館・外国樹種見本林—旭川駅—札幌駅—新千歳空港

六条教会 綾子・光世氏が日曜ごとに通った教会。丁度、西岡牧師がお祈りの途中で、わが一行もお祈りに加わる。

三浦綾子宅 光世氏(81才)在宅。1冊づつサイン入りの文庫本(私は「愛すること信ずること」)を貰う。記念撮影「銃口」への1996年「第1回井原西鶴賞」の受賞式もここで行われた。2階の口述筆記に使われた部屋も見学。

口述の妻の文机秋ともし

三浦綾子記念文学館 光世氏サイン会。光世氏による「小さな講演会」この講演会は全国の綾子ファンがその想いを吐露したり、人生の悩みを問い掛ける場となっている。

外国樹種見本林 赤のまんま、溝蕎麦などの花が乱れ咲く中を美瑛川畔まで歩を進める。「氷点」で陽子が自殺しようとした現場も。

壇 清々

<広報・編集部より・・・>

今回をもちまして「国見峠だより」は終了となります。ご愛読いただきありがとうございました。また、長い間ご執筆いただきました壇 清々氏に厚くお礼申し上げます。

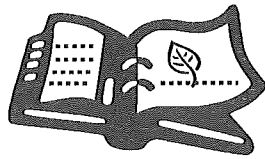
そして、このたび、壇清々氏の本が「国見峠だより」(副題：市民型シャッフル人生のすすめ)(1,470円)と題し、新風舎より出版されました。

今までの連載のものも含め、氏の多様な視点からの生き方が綴られています。

是非、一度目を通してみてください。ご入用の方は書店で注文するか、インターネットで下記までお申し込みください。

アドレス・・・<http://www.pub.co.jp>

私の本棚



『銀河鉄道の夜』 -しあわせさがし- 千葉一幹著 みすず書房刊

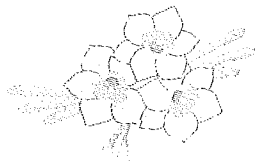
相談者が「死にたい」と訴えるとき、何を思えば良いのだろうか。私は時として、この方は死んで次の自分はどうなると思っているのか、と考えてしまう。来世というよりも順次の生を在ると思って生きてきたのかどうか。順次の生と世があるとすれば、謝びる事も、言えなかった事を伝えるのも可能だ。自分の順次生を待って、その時が到来する迄、取り敢えず今を生きる、という事にならないだろうか。

千葉は「一歳くらいの赤ちゃんは、母親から目を離し、母の見るモノを見よう」とし「そこを超出して新たな関係を築く」と言う。ただその行為は「自分を育ててくれたものとのあいだに確固として構築された『基本的信頼関係』がある」事を条件とするとも。

「親が育児において示す愛が、自己愛の基盤になる」親と子のある種自己犠牲的關係の本質は、子が自身の生を肯定的に捉える事が出来る様に成長するところにある。それはこの世で返済出来るものでなく、逆に「この世に自分が存在することに意義を見いだせる以上の幸いは、いったいあるでしょうか」と千葉は問う。

第三章自己犠牲の最終節「贈与と遺贈」は、相手との関係を考察したもので、負債意識は「相手に返済されるものではなく、次の誰かへと受け継がれていくべきもの」とする。しかし私は次の誰かへの問題だけではなく、自分自身が次の生と世に託す生き方と拮据して考えたい。この世で起こった事はこの世で収まるとは、一見楽天的だが、瘦せて縮んだ感覚だと思う。

37期 T. Y



広報・編集部より

- 今号より「字遊帳」に変わり、「私の本棚」を連載いたします。関西いのちの電話相談員が、今までに出会った本への思いや感想を綴ります。
- 今号は、都合により「共感ってなに？」を休ませていただきます。ご了承ください。

相談電話受信件数

受信月	6月	7月	8月	9月
受信件数	1,488件	1,772件	1,786件	1,577件
相談員数(延)	416人	463人	456人	435人

— 編集後記 —

猛暑だった夏も終わり、秋が深まっていく。
少しずつ変化を重ねながらも、季節は確実に移ろい行く。わが畑も夏野菜が終わり、今、大根、白菜などの冬野菜が茜色の秋の陽を浴びている。
畦道の秋桜が風に揺れ、赤トンボが円を描き、刈り田に白い煙がたなびく。何げない風景ではあるが、その中にいると、ほんのひととき何かともこころが満たされていく。慌しい日常から切り離された時間がそこにある。

N. K

社会福祉法人 関西いのちの電話

事務局 〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里 3-1-72
TEL. 06-6308-6868 FAX. 06-6308-6180
発行人 今村 一之 編集 広報・編集チーム
ホームページアドレス <http://www.age.ne.jp/x/kaind/>